140-0001 東京都品川区北品川2-28-19 品川宿交流館3F tel&fax.03-3471-8610 http://obachanchi.org/ 2023年07月発行

風通しのよい家族やまちで育つことを願って

ふれあいの家－おばちゃんち 代表理事 幾島博子

40年近く前、私は品川区内で２人の子育てを始めました。最初の９年間は社宅、エアコンはなく、外廊下に面する扉はどの家も夏は開けっぱなし。同世代家族が多く、大人は廊下で立ち話、子どもはあちこちの家に出入り自由でした。１０年目からは細い私道路地の奥の小さな一軒家で色々な世代･世帯に囲まれて暮らしていました。子どもも大勢いて、その路地で男女学年の違う１０人前後の子どもが毎日夕飯時まで走りまわって遊んでいました。夏にはどこかの家で花火が始まり、子どもは毎日花火を楽しむことができました。大雪の降った日、止んだ夜に雪合戦が始まったこともありました。

どちらでも、赤ん坊が泣きやまない時は、抱っこで外の風にあたり、泣き止むのを待つことができました。また、近所の買い物など短時間なら、一声かけて子どもを置いて出かけられました。大人同士何気ない会話で子育てのストレスのガス抜きをしていたり、子どもは顔なじみの大人がすぐそばにいて、安心な逃げ場があるように感じました。

それから３０年、品川の暮らしも変わってきたように感じます。集合住宅はオートロック、廊下は遊んではいけない所、私道路地も子どもの遊び場ではなく、静かな通路の場合がほとんどです。子どもは、保育園、幼稚園や学校、放課後事業、稽古事や塾で過ごす時間が長くなり、半数の子どもはほとんど外で遊ばない時代となりました。

それと並行して、家庭のプライバシーが守られ、自分たちのペース、価値観で暮らすことができ、世代間の軋轢もなく暮らせるようになりました。しかし、もしもその家庭が「風通しの悪い個室」だったとしたら･･･。

どんな家庭でもありうる子どもへのちょっとした不適切な対応、家族の様々な問題も、「個室」では悪循環が起きやすく、それが見えなくなってしまい、手助けすることも難しいでしょう。

「自己責任」という冷たい言葉が横行する中では、家族以外の人を頼ってはいけないと思っている人も少なくなく、いつの間にか風通しが良くない状態になることもありうるかもしれません。そんな時代の移り変わりの20年、おばちゃんちは、「子育て子育ちにやさしいまち」を願って活動してきました。「困ってるんです」「手伝って欲しい」と言える、力になってくれる人がいる、場がある、そんなまちにしたいのです。

ふらっと立ち寄れる親子広場（みこちゃんち、しょうちゃんち、にじっこなど、他団体の広場）では、スタッフが暖かくお迎えし、保護者同士の交流も盛んです。冒険ひろばでは、思い切り遊んでいる子どもを眺めながら、大人同士おしゃべりがはずみます。子どもと離れて、自分の時間が欲しい時は、理由を問わず乳幼児をお預かりします（ほっぺ、わっこ）。専門家ではなくても身近な「おばちゃん」がお母さんお父さんの声に耳を傾け、出会った大人同士が、お互いさまで助け合ってまちの仲間になるように工夫をしています。プライバシーは守られ、互いに尊重しあいながら、あたたかくつつむ風が「ただいま」と帰る家族とまちに行き来していれば、子育てはもっと楽しくなりそうです。（各事業は、8頁をごらんください）

▲ほっぺのお弁当の様子
（コロナ禍前）

にじっこの工作の様子 ▸
（コロナ禍前）

会員情報
（５月末日現在）

正会員	44名
支援会員	91名
賛助会員	4名
計	139名

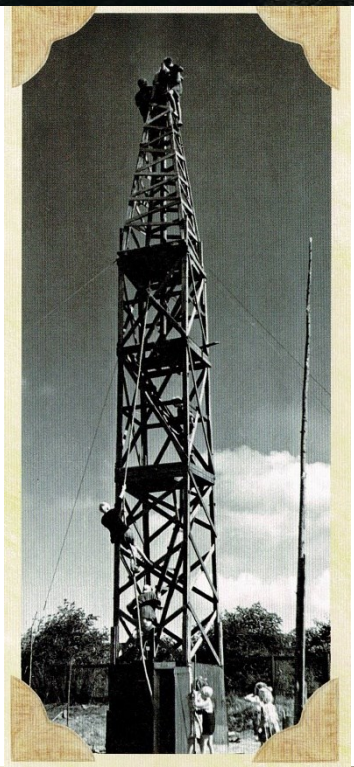
ご寄付ありがとうございました
山田巴様、神宮愛子様、金仁哲様
金崎久一様　イオンリテール株式会社様
ほか匿名7名

年会費・ご寄付は
郵便振替 00120-3-583720
クレジットカード・コンビニ・キャリア決済
はSTORES（ネットショップ）から＞

デンマークの遊び場の居心地の良さ

こども冒険ひろば統括プレイワーカー　宮里和則

2023年5月、北欧に行ってきました。旅の目的は２つ。IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）世界大会でプレゼンテーションを行うことと、冒険遊び場の原点となった、エンドラップの廃材遊び場の今の姿を見てみたいと思ったからです。そこで、デンマークの遊び場を訪問し感じたことを綴りました。



エンドラップ廃材遊び場

廃材遊び場は1943年に造園家ソーレンセン教授が生み出した遊び場です。自分たちが作った公園より、資材置き場やがらくたが置かれている場所で、子どもたちが楽しそうに遊んでいるという気づきから、作られたものです。

遊び場を外から見えない高い塀で囲み、そこに廃材を持ち込み工具を使うので、一人だけ大人のスタッフ（この人が初代のプレイワーカー･ジョン･ベルテルセンです）をつけ開園しました。

この遊び場は大人気になり、日々子どもたちであふれていました。写真はこの遊び場に建てられた塔と家を作っている子どもたちです。（エンドラップ80周年誌より）さすがにこの塔は近隣のクレームで、取り壊されることになりましたが、その後も子どもたちでにぎわっていたと伝えられています。

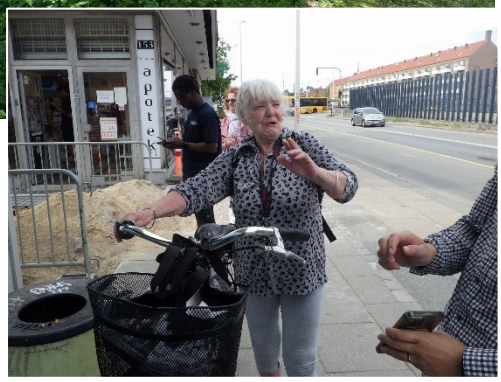
この遊び場が今はどうなっているのか、エンドラップを訪ねました。今のエンドラップは予想以上にきれいな遊び場になっていました。自然や子どもたちの冒険心を大切にしたつくりになっていますが、冒険遊び場というより日本の幼稚園･保育園･こども園のようでした。子どもたちは登録制で2つの団体が運営していました。もっと子どもの力があふれだすような遊び場（冒険遊び場のような）を期待していた私は少しがっかりしました。しかし同時にコミュニティにも認められ、経営的にも長く続けられるようにするためには、日本の放課後児童クラブのようなこの形も大切なのかもしれません。

ロイヤルライブラリーガーデン(コペンハーゲンの庭園)

建てられている小屋は古びていますが、しっかり建てられ大人が作ったように見えました。小屋の前でペタゴー（プレイワーカーのデンマークでの呼び方･教育スタッフと訳されます）が話します。「この建築遊びは今は10％くらいの子どもしか興味を示さない。ほとんどの子どもはゲームかな」と。日本と同じ問題を抱えているようでした。

帰りのバス停で座ってバスを待っていると、おばあちゃんが話しかけてきました。なんと子どものころエンドラップで遊んでいたという方でした。「日本人も来た。お菓子をいっぱい持ってきた。焚火で焼いて食べた。」などのエピソードを語ってくれました。「自分が子どものころ廃材遊び場が好きだった。子育てもそこでした」と懐かしそうに語ってくれました。おばあちゃんの中にはまだあの当時の廃材遊び場が生きているようでした。にこやかな笑い顔が印象的でした。

▲エンドラップの跡地の遊び場



▲話をしてくれたおばあちゃん

ウサギのいる遊び場

次にレズオウア地区の遊び場を訪れました。ここも昔はadveture playground（冒険遊び場）の看板を掲げていたところです。

到着するとペタゴーが待っていてくれました。一緒に歩きながらセンター棟に向かいます。道の両側に広がるたくさんの子どもたちが作った小屋。ここには遊びのパワーが満ちていました。期待できそうです。

それぞれの小屋の前にはウサギ小屋がありました。なんとたくさんのウサギでしょう。このあそび場の中心はこのウサギの飼育なのです。もちろんウサギを飼わなくても自分たちの小屋を建てたり、遊ぶことはできます。でもほとんどの小屋の前にはウサギ小屋が建っていました。

ウサギを抱いた女の子たち。大切そうに抱えおしゃべりしています。のどかな空気が流れています。センター棟の近くにウサギ小屋がまとまっているところがあります。聞くとインターン（研修生）の小屋だといいます。ウサギを飼う前に、きちんと飼うことができるか、インターン期間があるのだそうです。

▲たくさんのウサギ小屋が建っていた

観光地の近くのお店

ここで合格したら、知り合いではない子同士でグループをつくり、小屋を建て、本格的にウサギをもらい飼育するとのことです。糞尿処理も大切な仕事です。途中であきらめる子どももいるようです。馬の世話をしている子どももいます。デンマークでは昔から子ども時代に動物を飼う習慣があったようですが、今都市部では自分の家で飼えない子どもたちもたくさんいるので、こういった公園ができていったのでしょう。

この遊び場も登録制で、9歳から14歳までは親と面談をして契約してから利用。15歳から18歳は自分で契約。料金も自分のこづかいで払えるくらい安くなります。登録の8割が女子。2割が男子とのこと。ウサギの飼育が中心になっているからでしょうか。

▲インターンたちのウサギ小屋

教育的風合いも感じる遊び場ですが、それでも子どもたちの遊びの力が広がっているのを感じます。小屋の上で笑い転げる子どもたち。がらくたを物色する子どもたち。小屋を新しく作り始める子どもたち。自分たちの遊びを展開しながら、ウサギを飼うという生活を作っていくこと。ウサギを世話し、ともに遊ぶ。親の了解を得れば、電動工具も使えるそうです。日本の子どもから見ると羨ましいくらいの豊かな子ども時代を感じました。

▲広大なスケボーパーク

コペンハーゲンの公的遊び場

さてこれ以外にデンマークの首都、コペンハーゲンには125以上の公的な遊び場があります。もちろん公的な遊び場はどれも無料。

いくつかの公園を見てきましたが、それぞれにテーマがあり、ペタゴーが常駐しているところもあります。水遊び、建築遊び、アーティストが作った遊びに活気とインスピレーションを与える遊び場など…大きなスケボー用の遊び場もありました。（これは柵もなく広大なものでした。日本ではこれが無料とは思えません）

ペタゴーが常駐している公園もいくつか訪れました。

ホームページを見ると、ペタゴーのいる遊び場は27あるそうです。ホームページには、右のような小さな毎日の活動に参加できると書かれています。

学校の休暇には遊びのいろいろな企画を行うと書かれていました。日本の児童館のようですね。

対象年齢も0～99歳となっています。訪れた時高齢の方が一人で来ているシーンを見なかったのですが、そんな時もあるのでしょうか。ただどこにも柵があり、カギを外して入らなければならないので、ふらっと入るにはハードルがあると思います。

コペンハーゲンの遊び場のホームページ
https://legeplads.kk.dk/

・ヨガとリズミクス（リズム運動）
・ロージュエリー（ジュエリーの溶接）とビーズプレート
・野菜を育てて昆虫ホテルを作る
・宿題カフェと読み聞かせ
・サッカートーナメントと卓球の試合
・火曜日のシュローブ（謝肉祭の最終火曜日のイベント）、クリスマス、夏の収穫、ハロウィーン、などのイベント

塔のある遊び場

訪ねたペタゴーのいる遊び場は皆にこやかでおしゃべりなおじちゃんがペタゴーでした。これが選考基準なのでしょうか。(笑)

隣の学校から休み時間に遊びに来る子どもたち。小さな子どもたちの周りにはお母さんやお父さんがのんびりしています。回転遊具を押しながら大きな声で歌を歌っているお父さんもいます。ベビーシッターのような人たちもいます。どこもとてもいい空気が流れていました。

これがデンマークの人たちが大切にしている『ヒュッゲ』という感覚なのでしょう。

旅人として訪れたデンマークですが、デンマークの子どもへの施策を垣間見て、これこそが豊かな国なんだなあと感じました。世界で一番幸せな国ともいわれるデンマーク。あこがれているだけでなく私たちも、一歩進みたい、そしてできることがあると感じました。私にとっては道を指し示す灯台の一つになったような気がします。

▲ペタゴーと同行してくれた寺田さん

▼IPA日本支部のホームページ

IPA世界大会に参加

IPA(子どもの遊ぶ権利のための国際協会)は3年に一度、世界大会を開催しています。今回は2023年6月6日から9日までの4日間、スコットランドのグラスゴーカレドニアン大学で開催されました。

世界41ヵ国から550人が参加(6年ぶりだったので多い！)。日本からは16人が参加(日本在住ではない人を含めると20人くらい)しました。口頭発表(プレゼンテーション)、パネルディスカッション、ポスター発表、ワークショップ、ソーシャルイベントなどが行われました。100人を越えるボランティアが運営に参加していました。

私はこの会議で1990年から取り組んできた「忍者修業の旅」(まちの中で子ども忍者が様々な修業を行うプログラム)のことを、まちでの遊びの分科会でお話しました。英語に少々難ありでしたが、大忍者の衣装を着ての報告は反響が大きかったです。研究者の報告が多い会議なのでしょう、私の子どもたちの物語を語るプレゼンはとても喜ばれ、報告が終わると「今までのプレゼンで一番面白かったです」と言われ、テンションが上がりました(笑)。たくさんの方に話しかけられ、様々な質問をされ面くらいましたが、同行していた寺田光成さん(高崎経済大学特命助教)に通訳をしてもらいなんとか乗り越えました。

会議にはDr. Philip D. Jaffé (国連子どもの権利委員会の委員を務める法心理学の専門家)もみえ、子どもたちの意見に耳を傾けていました。また日本メンバーによる日本の子どもたちの遊びを取り巻く現状報告「JAPAN TODAY」にもDr. Philip D. Jafféさんは参加して、「日本の子どもたちのためにつながりましょう」と言ってくれました。すごいです！！

この大会の詳しい報告は、IPA日本支部のホームページに載ると思いますので、チェックしてみてください。

おばちゃんたちが

紹介したいおススメ本

忙しい育児の合間に手を取ってみてはいかかでしょうか？ 子育てがもっと楽しくなる、そんな一冊に出会えるかも。

この本はひとりでなんでも できるようになったくらいのお子さんをお持ちの親御さんに読んでもらいたい本です。
子育てあるあるの中にくすっと 笑えてちょっと泣けるそんな本です。

「あんなにあんなに」
ヨシタケシンスケ著
ポプラ社

最初の発刊から60周年の『ぐりとぐら』。その作者であり、元保育士の中川李枝子さんの本です。子どもと関わるのはほんとうにたいへんなことですが、焦らなくても悩まなくてもだいじょうぶと思える本です。

「子どもはみんな問題児。」
中川李枝子
新潮社

食物アレルギーの乳幼児の本はたくさんありますが幼児から小学生の食事のあり方について、読みやすく分かりやすい本は少ないです。
食物アレルギーのある子ない子の家庭で食事を作るとき、参考になる本です。
忙しいパパ•ママが手軽に作れる料理レシピがたくさんのっています。

「 食物アレルギー栄養しっかりごはん」
今井孝成、高松伸枝他
女子栄養大学出版部

パパになって初体験したトホホなアレコレを綴るイラストエッセイ。
「大変なのは今だけ」「あっという間に大きくなる」なんて先輩方の言葉が腑に落ちない育児進行形のパパママの背中をそっと押し、「大きくなっちゃったなぁ」と感慨深いパパママのあの頃の愛しさを思い出させてくれます。

「ヨチヨチ父　　ーとまどう日々ー」
ヨシタケシンスケ著
赤ちゃんとママ社

絵本作家のお母さん、ノンフィクション作家のお父さん、年子の姉を持つ、人見知りといやいや期の3歳の目線で描かれた日常と心情。保育園を途中で転園、卒園までの本編と、その後10歳までの物語を、共感してちょっと涙したり、クスりと笑える短編エピソードです。

「新編マキちゃんのえにっき」
いせひでこ著
平凡社

日常に起こるハプニングや色々なできごと。
落胆するよりは「まいいか」と少し視点を変えてみる。良い方に考えてみる。
肩の力を抜いて、ハプニングも楽しんでみる。
そして、楽しく前に進む!
忙しい毎日の中だけど、そんな気持ちも大切にできるといいな、と思います。
ぜひ、大人にも楽しんでいただきたい一冊です。

「ねこのピート　だいすきなしろいくつ」
作： エリック・リトウィン　絵：ジェームス・ディーン
ひさかたチャイルド

2023年度
おばちゃんちスケジュール

2023年度これまで

4月 スタッフ研修＆定期総会 5/28（日）

3年ぶりに顔を合わせて全スタッフ研修と定期総会を開催できました。スタッフ研修では、みんなで行政の子ども政策の動きについて学び、各事業の未来の姿を描きました。定期総会では、少しづつ活発になってきた事業の総括を行い2023年度のおばちゃんちの展望を話し合いました

5月 運河まつり@東品川海上公園 4/8（土）、9（日）

毎年桜吹雪の中開催される運河まつり。今年も出店してきました。土曜日は北品川のいどばたさんといっしょにチラシを配布。日曜日は待ちに待ったバザー。懐かしい利用者やスタッフも顔を出してくれて、楽しい一日となりました

6月 子育てサポーター養成講座開講 6月～9月

今年で17回目！子育てサポーター養成講座を受講生12名で開催しました。夏の保育実習も含め全10回の講座です。回を重ねるにつれ、参加者同士の交流が広がり、学びが深まっています。

6月 子育ての悩み対策ワークショップ（小学生低学年向け講座） 6月～7月

2019年に小学生の親向けに開催したワークショップ。パワーアップをして帰ってきました。子どもとのかかわり方、ゲームとのつき合い方、アンガーマネジメントと3つのテーマについて語り合いました。

7月 そとあそび わくわく講座 7/1（土）

「子どもは外で遊ばない!?」～データからみる子どもの未来～と題して、子どもの外遊びの現在と未来について、参加者の皆さんと一緒に考えました。

7月 子ネット 7/6（木）

品川区の子育てに関わる団体のネットワーク。2024年10月に開所する品川区立児童相談所の方を講師にお招きして、お話を伺い今後の連携について考えました。

7月 ひろば交流会 7/14（金）

子育てひろばを開催している団体があつまる交流会。（1年に3回）区内にある30ほどのひろばに声をかけ、ひろばでの悩み事について話し合いました。

2023年度これから

10月 品川子育てメッセ 10/27（金）

10月27日（金）品川子育てメッセが開催します。１階小ホールではミニコンサートと虐待防止講演会。７階イベントホールでは大きな親子ひろばをつくり、品川区内の子育てに関する団体が一堂に会します。ぜひお越しください。

11月予定 完璧な親なんていない（NP講座）

0～3歳の親に向けての講座。11月に開催予定です。詳しくはホームページをご覧ください

【2024年の予定】

1月　にじっこコンサート@荏原文化センター
2月　あそびうたフェスティバル@荏原文化センター

おばちゃんち 活動予定

おばちゃんちからのお知らせは、twitterやfacebook、Instagramでもチェック！
http://obachanchi.org

NPO_OBACHANCHI

ふれあい広場

開催日：毎週月曜（祝日は休み）
時　間：10時～12時と13時～15時
参加費：１家族100円
親子でお出かけください

みこちゃんち
会場:品川宿おばちゃんち
（品川区北品川2-19-6）

しょうちゃんち
会場:昭和通りおばちゃんち
（品川区西中延2-18-1）

しながわこども冒険ひろば

開催日：月火水土日
(木･金 休、祝日は開園します)
時　間：10時半から17時半
会　場：しながわ区民公園･
しながわこども冒険ひろば
(品川区勝島3-2-2)
参加費：無料

乳幼児親子ひろば
そとぼ～よ！

毎週火曜日 10時半から14時
子どもたちに思いっきり外あそびを楽しんでほしい！０歳からの初めての外あそびをサポートします!

北浜こども冒険ひろば

開催日：月火水木金土
（日･祝 休）
時　間：14時から18時
※第1･3水曜日は11時開園
会　場：北浜公園･
北浜こども冒険ひろば
(品川区北品川2-28)
参加費:無料

お外であそぼう！

第1･3水曜日 11時から14時
よちよち、とことこ。お外で遊ぶ。おとなも一緒に、お外で遊ぶ。月に２回の「お外であそぼう！」北浜でのんびりじかんを過ごしませんか？

設立20周年記念誌
「まちで育つ　まちが育つ
～広がるあたたかい風とともに～」ができました。
昨年の12月に行われた20周年記念事業の報告、おばちゃんちのこれまでの資料やこれからの夢を載せた記念誌です。
ご希望の方はご連絡ください。

ほっと･サロン@八潮　にじっこ

開催日：祝日を除く毎週木曜日
時　間：13時半から15時半
会　場：こみゅにてぃぷらざ八潮1F　託児室 （品川区八潮5-9-11）
参加費：1家族100円（初回無料）

あずかり広場

「品川宿おばちゃんち」
ほっぺ
tel.03-5463-6458
品川区北品川2-19-6

「昭和通りおばちゃんち」
わっこ
tel.03-5749-3212
品川区西中延2-18-1

月曜から土曜まで9時から17時まで
（土曜は予約状況で変更することがあります）
4時間までの基本保育料は1時間500円、4時間を超える延長保育は1時間600円になります
＊＊＊区外の方はご利用条件が異なります。詳しくはそれぞれ左記電話番号へお問い合わせ下さい

▲わっこの玄関にできた七夕かざり

サポーター派遣保育
えくぼ

自主サークルや団体が講座や講演会などを行っている間のグループ保育に、おばちゃんちの認定保育サポーターを派遣します。活動の主旨などによりご利用条件が異なります。詳しくはお問い合わせ下さい。